

経済視点 で学ぶ 歴史の授業

梶谷真弘 [著]
Kajitani Masahiro



● まえがき

織田信長はなぜ比叡山延暦寺を焼き討ちしたのでしょうか。信長の残酷さの象徴として語られることが多いエピソードです。では、経済の視点でみると、どうでしょうか。当時の寺社勢力は、荘園や関所から収入を得て強大な勢力を誇っていました。楽市楽座に代表される、自由で活発な商業によって経済を活性化させようとしていた信長の政策が行われると、寺社勢力は自分たちの財政基盤を失ってしまいます。そのため、信長に抵抗したのです。信長は、よりよい経済システムをつくるために、抵抗した寺社勢力と戦ったのです。

信長の政策は、経済の視点でみると、とても合理的です。商業を活性化させて領内を豊かにし、戦のプロの常備軍を雇うための資金を調達しました。そして、モノの運ばれる流通の要所をおさえ、他の戦国大名に対して優位に立ちました。信長の政策を経済の視点でみることで、当時の社会のしくみをスッキリ理解することができます。

このように、歴史のできごとには、経済が大きく影響しています。経済の視点でみることで、歴史をより深く理解し、現代にも応用できる見方・考え方を身につけることができます。

私は、中学校社会科の教師です。社会科には地理・歴史・公民の分野がありますが、地理では地理の内容を、歴史では歴史の内容を教えるだけでは不十分と考えています。歴史では、歴史の題材や視点を中心にしながら、地理・経済・政治など、様々な視点から考え、当時の社会を深く理解し、人々の判断・行動を評価し、現代に生かしていく。そういった学習を理想と考えています。本書は、その中でも、経済の視点を軸に、歴史を学習する考え方や方法を取り上げました。なぜなら、経済の視点は、人々の判断・行動や社会のしくみに大きく影響を与え、切っても切れない関係にあるからです。

本書では、歴史をみるための経済の視点を紹介し、経済の視点でみた歴史の事例を多数取り上げています。歴史を単なる知識として教えるのではなく、歴史を通して見方・考え方を育み、現代の我々が活用できる力

を育てていきましょう。

本書は、次のように構成されています。

第1章は、経済の視点を取り入れた歴史学習の理論です。なぜ歴史を学ぶのか、歴史で何をどのように学ぶのか、なぜ経済の視点が必要なのか、どのように経済の視点を用いるのかを、見開きで簡潔に解説しています。

第2章は、歴史学習に取り入れる経済の視点です。歴史的な事象や人々の判断・行動に影響を与えた経済の視点を、3領域9視点に系統化して、わかりやすく解説しています。また、それぞれの視点に対応する第4章の事例を一覧表で見られるようにしています。

第3章は、経済の視点を取り入れた学習法です。3つの型と3つの学習法に分類し、すぐに取り入れられる「ネタ挿入型」や、人物の政策を評価する学習法など、経済の視点を取り入れた具体的な学習法を紹介しています。

第4章は、実践編です。古代から近代までの事例を、「どうして～だったの？」などの問いに答える形で解説しています。各頁の事例と、第2章で解説した経済の視点との関係を一目でわかるように、構成しています。また、「へえ～、そうだったのか」と歴史の読み物としても楽しんでいただけるようになっています。

読者のみなさまのニーズによって、どこから読んでいただいても構いません。

本書が、学校現場で日々熱心に教育に携わっておられる先生方、歴史に関心があり手に取っていただいた方々のお役に少しでも立てれば幸いです。

本書の執筆にあたり、横山駿也社長をはじめ、さくら社の方々には大変お世話になりました。企画から構成まで様々な面で支えていただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

2020年 5月

梶谷真弘

第1章 経済の視点を取り入れた歴史学習理論

- 1 なぜ歴史を学ぶのか 10
- 2 歴史で何をどのように学ぶのか 12
- 3 なぜ経済の視点が必要なのか 14
- 4 どのように経済の視点を用いるのか 16

第2章 歴史学習に取り入れる経済の視点

- 1 経済の前提 18
- 2 意思決定 22
- 3 影響 28
- 4 経済全体の動き 34

第3章 経済の視点を取り入れた歴史学習法

- 1 経済の視点を取り入れた学習法 44
- 2 経済視点の系統的学習 46
- 3 政策評価学習 48
- 4 意思決定学習 50
- column 「経済」とは 52

古代

- | | | |
|----|--------------------|----|
| 1 | 国が栄える条件① 古代エジプトの繁栄 | 54 |
| 2 | 国が栄える条件② 古代エジプトの衰退 | 56 |
| 3 | 国が栄える条件③ ローマ帝国 | 58 |
| 4 | 減税で勢力をのばしたイスラム帝国 | 60 |
| 5 | 縄文時代の経済活動 | 62 |
| 6 | 鉄から見えるヤマト王権 | 64 |
| 7 | 社会保障の先駆けだった出挙 | 66 |
| 8 | 大都市成立の条件 奈良 | 68 |
| 9 | 修理できなかつた羅城門 | 70 |
| 10 | 貧富の差が生んだ唐の繁栄 | 72 |
| 11 | 貿易で力をつけた平氏① | 74 |
| 12 | 貿易で力をつけた平氏② | 76 |
| 13 | 平氏滅亡の謎 | 78 |
| | column 古代 | 80 |

中世

- | | | |
|---|---------------|----|
| 1 | 政府の成立要件 鎌倉幕府 | 82 |
| 2 | 利益を優先した足利義満 | 84 |
| 3 | 日明貿易廃止の謎 | 86 |
| 4 | 徳政令で得する人、損する人 | 88 |

5	制度が生み出した者たち 倭寇	90
6	ザビエルからみる国際情勢	92
7	キリシタン大名の本当のねらい	94
8	織田信長の経済政策① 比叡山延暦寺焼き討ち	96
9	織田信長の経済政策② 強さの秘密は経済政策	98
10	兵農分離の経済効果	100
11	秀吉はどうして朝鮮侵略を行ったのか	102
	column 中世	104

近世

1	徳川家康の財政再建	106
2	江戸幕府の財政的欠陥	108
3	「天下の台所」をつくった男	110
4	文化を支えた昆布ロード	112
5	経済発展の基盤をつくった生類憐みの令	114
6	吉宗は名君か①	116
7	吉宗は名君か②	118
8	経済を熟知した老中・田沼意次の改革	120
9	天明の飢饉は天災？人災？	122
10	社会保障を充実させた松平定信	124
	column 近世	126

近代

- 1 イギリスの繁栄① マグナカルタ 128
 - 2 イギリスの繁栄② 海賊を利用したエリザベス女王 130
 - 3 イギリスの繁栄③ 国債と銀行 132
 - 4 金で勝ち、金で負けたナポレオン 134
 - 5 アメリカの発展① 国土買い取りの経済効果 136
 - 6 アメリカの発展② 第一次世界大戦とエネルギー革命 138
 - 7 薩摩藩の藩政改革① 調所広郷の財政改革 140
 - 8 薩摩藩の藩政改革② 島津斉彬の改革 142
 - 9 坂本龍馬は何をしたのか 144
 - 10 お金で成功した廃藩置県 146
 - 11 明治政府の財政難を救った渋沢栄一 148
 - 12 お酒で賄った日清戦争の戦費 150
 - 13 田中正造のメッセージ 152
 - 14 伊庭貞剛のメッセージ 154
 - 15 経済の視点で領土拡大を批判した男 石橋湛山 156
- column 近代 158

経済の視点で 歴史学習

第1章

経済の視点を取り入れた歴史学習理論

第2章

歴史学習に取り入れる経済の視点

第3章

経済の視点を取り入れた歴史学習法

1 なぜ歴史を学ぶのか

① 「歴史とは、過去と現在の対話」

「歴史とは、過去と現在の対話である。」

この言葉は、歴史学者の E.H. カーが著書『歴史とは何か』で述べた言葉です。歴史とはいったい何か、そして歴史をなぜ学ぶのかを、短く、わかりやすく、私たちに伝えてくれています。

歴史学習は、過去について知っていることを増やす学習ではありません。もの知り、雑学王、クイズ王を育てるものでもありません。現在の歴史学習は、用語暗記、もしくは用語理解型の学習が中心になりがちです。もの知りな先生の話聞いて、子どもが「へえ～」と言うだけの授業では、真に歴史を学んでいるとは言えません。

② 歴史を学ぶ目的

歴史を学ぶ目的は様々ありますが、一つは次のように言えます。

過去に起こったできごとや人物の行動の分析を通して、社会のきまり(法則)や共通性、因果関係、生き方を学び、これからの生き方に生かすことです。そのために、歴史の学習では、できごとはなぜ起こったのか、その人はなぜそのような行動をとったのかを、当時の社会状況や因果関係から考えていきます。

歴史を学ぶ上で、この「考える視点」がとても大事になります。歴史で学ぶできごとが、すべて共通性のないバラバラに起こるできごとだと、学んだことを次の学習に、そして自身の実生活に生かせません。歴史の法則性や共通性を見つけることで、学んだことを次の学習に、そして自身の実生活に生かすことができるのです。

「どうして～なのだろう？」という問いを持ち、資料などからそれを考え、「(できごと)の原因は～だ」、「(人物)は～だから、～をしたんだ」と、

できごとや人の行動を解釈します。そして、それが「以前に学習した～と同じだ」、「現代の～と同じだ」と気づくと、「考える視点」が獲得できたと言えます。さらに、その「考える視点」を別のできごとに応用することができれば、「考える視点」を応用することができたと言えます。

③ 学んだ視点を応用し、判断・評価する

また、歴史学習を「過去学習」にしないためには、歴史における法則や共通性を見つけるだけでは不十分です。

歴史学習の質を、上・中・下で表すと、表1のようになります。

下の用語暗記型・用語理解型の授業では、知識の獲得が目的になります。知識はすべての基盤ですが、それだけでは不十分です。

中の因果関係や共通性を考え、解釈する授業では、知識を基盤に思考し、「考える視点」、つまり見方・考え方を深めることが目的になります。学習したことを応用する力をつけます。

そして、上の真に求められる歴史学習では、見方・考え方をもとに、歴史のできごとが正しかったのかを評価したり、どうすべきかを判断したりし、現代の社会問題に対して判断・行動できる力をつけることが目的になります。

■表1 歴史学習の質の段階

歴史学習の質	内容・方法	目的
上の授業	歴史のできごとや人の行動を判断、評価する授業	できごとを判断・評価し、行動する
中の授業	因果関係や共通性を考え、解釈する授業	見方・考え方を深める 応用する
下の授業	先生が知識を語る用語暗記・用語理解型授業	知識の獲得

【参考文献】・E.H. カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年

2 歴史で何をどのように学ぶのか

① オーセンティックな学習

歴史学習では、何を、どのように学習すればよいのでしょうか。

社会科に求められるのは、より良い社会を形成する市民の育成です。歴史学習もその一翼を担っています。アメリカの教育学者であるF.M. ニューマンは、オーセンティックな（真正の）学習を提唱しています。オーセンティックな学習では、より良い社会を形成する市民を育成するために、授業を構成します。歴史も、ただ歴史を学ぶのでなく、より良い社会を形成する市民になるために学習します。オーセンティックな学習では、次の3つを重視します。

(1) 社会で重要な内容・方法

歴史の知識を増やすのは、社会に出ると重要ではありません。学問の成果（内容）や手法（方法）を踏まえた学習は、社会で起こる問題を解決する場合に重要です。歴史学の内容や方法を踏まえた学習が必要です。また、歴史学だけでなく、複数の学問の成果や手法を取り入れることで、学習は深まります。

(2) 社会で意味のある学び

学習した知識を、ただの知識として記憶しておくだけでは、社会に出たときに意味のないものになってしまいます。社会で起こる問題を解決するために、学んだ知識を自分に必要な形に再構成する必要があります。再構成とは、例えば、いくつかの知識を組み合わせたり、別の場面に応用したりすることです。

(3) 学校の外で価値がある学び

学校のテストだけで使える知識は、社会では価値がありません。社会で起こることを理解したり、問題を解決したりするために、知識を用います。また、学習の結果として、自分の意見や成果物を他者に発信することで、学習が社会にとって価値のあるものになります。

このように、オーセンティックな学習は、①学問に基づく重要な内容・方法を用い、②社会で意味のある学びになるように知識を再構成し、③学校の外でも価値のある学びになるように設計します。

② 経済の視点を取り入れた歴史学習

オーセンティックで理想的な歴史学習とは、**歴史のできごとについて、歴史・地理・経済など、様々な視点（見方・考え方）で分析し、当時の社会状況や人々の判断・行動を理解し、それを現代社会に応用する力をつける学習**です。

しかし、いきなり理想的な歴史学習を行うのは難しいでしょう。そこで、本書では、**歴史学習に経済の視点を取り入れる学習**を提案します。

例えば、「どうしてヤマト王権は力をつけたのか」を考えてみましょう。これは、鉄という、当時日本での製造が難しかった、「希少性」の高いモノを、ヤマト王権が海外から独占的に仕入れたこと（「**交易**」）で、周囲のクニに対して優位に立ち、力をつけたのです。

ここで言う、「**希少性**」、「**交易**」が、本書で扱う経済の視点です。経済の視点を取り入れることで、当時の状況をスッキリ理解できます。また、同じようなケースは、歴史で度々登場します。そのとき、ヤマト王権で学んだ視点を使うことで、別の事例を理解しやすくなります。また、歴史だけでなく、現代の問題を考える上でも、使える視点（見方・考え方）になるのです。

【参考文献】・ David Harris and Michael Yocum, *Powerful and Authentic Social Studies*, National Council for the Social Studies, 2000.

・ Fred M. Newmann and Associates, *Authentic Achievement: Restructuring Schools for Intellectual Quality*, Jossey-Bass a Wiley Company, 1996.

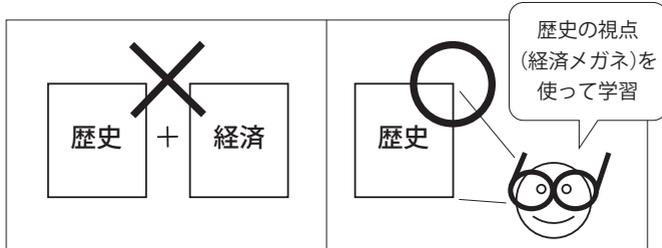
・ 拙著「Powerful and Authentic Social Studies における教師の専門性の開発—社会科授業の評価基準に着目した分析研究—」大阪教育大学 社会科教育学研究 第 10 号、2012 年、pp.1-10.

なぜ経済の視点が必要なのか

歴史学習に経済の視点を取り入れると書きました。

「歴史の内容を教えるだけでも大変なのに、経済の内容まで教えないといけないのか!」、「経済の学習は中学3年生で行うので、中学1・2年生に教えるのは難しい」などの意見が聞こえてきそうです。

経済の内容を追加して教えるのではなく、経済の視点、つまり経済の見方・考え方を使って、歴史を学習するのです。また、経済の内容は、決して3年生にならないと学べないものではありません。現在の経済学習が、歴史同様、用語を覚える学習になってしまっているために、経済を難しく感じるのです。経済というのは、私たちの生活の様々な場面に関わっています。さらに言えば、多くの人は、日常的に経済の視点を使って、判断・行動をしているのです。



① 判断や行動は、経済の視点が大きく影響する

どうして織田信長は、比叡山延暦寺を焼き討ちしたのでしょうか。この問題は、お寺、つまり寺社勢力を、現在のお寺と同じように考えていてはわかりません。当時の寺社勢力は、荘園や閥所からの収入を背景とした財力と、武装化したお坊さんである僧兵を抱えた一大勢力であり、貴族も将軍も戦国大名も手出しできないほどの力を持っていました。

信長は、自由で活発な商業によって経済を活性化しようと、様々な政策を行いました。しかし、寺社勢力にとって、そのやり方では自分たち

の財政基盤を失ってしまいます。そのため、信長に抵抗したのです。信長は、よりよい経済システムをつくるために、抵抗した寺社勢力と戦ったのです。

このように、人々の判断や行動には、経済が大きく影響しています。経済の視点でみることで、その人の行動の意図や当時の状況がよくわかります。

② 経済の視点でみることで、より深く理解できる

どうして信長は戦国時代の中、あれだけ勢力を広げることができたのでしょうか。それは、「戦のプロ」である常備軍をつくったからです。

それまでの戦国大名は、戦の度に民衆を集めて戦っていました。そのため、統率力も低く、農業に手のかかる時期は、戦ができませんでした。そこで、信長は戦のプロである武士を雇い、常に戦に備えて鍛錬ができる常備軍をつくりました。しかし、常備軍を雇うには、お金がかかります。そこで、信長は、自由な商売を認め、商業を活性化させ、商人にその権利を認める代わりに税を納めさせました。経済政策に力を入れ、それが成功したことで、武士を雇うことができ、勢力を広げることができたのです。

このように、歴史のできごとは、経済の視点でみることで、より深く理解することができるのです。

③ 経済の視点でみることで、現代に応用できる

先ほどの信長の例は、歴史のできごととして知っているだけでは、現代に生かすことは難しいでしょう。

そうではなく、経済の視点でみるとどうでしょうか。信長の経済政策をもとに、他の戦国大名はどのような政策をしていたのか、比較ができます。そうすると、戦国大名の領国経営の大切さがわかります。戦国大名を、経営者としてみることができます。経済の視点でみることで、学んだことを別の事例に応用することができます。さらに、それを現代に応用することができるのです。